

イギリス英語のポライトネス

～ポライトな社会での無作法の楽しみ方～

東洋大学 三宅 和子 miyake@toyonet.toyo.ac.jp

1. Polite or Rude?

焦点:

- a) Polite なイギリス人¹が rudeness 満載の TV 番組を愉しんでいる
- b) 行使される rudeness: 司会者の rudeness、回答者の rudeness の違い
- c) Rudeness が許される番組の枠組
- d) Rudeness の文化依存性: 日本との対比

資料:

- 1) Polite なイギリス人 三宅(1992、1993)の感謝と詫びの研究
- 2) Rudeness を愉しむイギリス人 TV 番組 The Weakest Link

意義:

Politeness の研究進展のためには rudeness 研究が必須であるとの指摘は Kasper(1990) や Fraser(1990)などでなされているが、これまで研究は散見する程度しかない。本発表では rudeness から politeness へのアプローチを試み、新たな議論の材料としたい。

2. Polite なイギリス人:「感謝」と「詫び」(三宅(1992、1993))

<場面設定>「先生に頼んで卒論のテーマを変更させてもらった」

日本語では感謝の気持ちと詫びの気持ちが同時に感じられる場面。言語表現としては詫び表現、あるいは詫び表現と感謝表現が同時に用いられる。アメリカ人とイギリス人はともにこの場面を感謝の気持ちをもつ場面であると捉えた。言語表現をみると、アメリカ人が圧倒的に感謝表現を使うのに対し、イギリス人は感謝表現のほかに感謝表現の後に詫び表現を付加するものが少なからずみられた(表1)。

表1. 「先生に頼んで卒論のテーマを変更させてもらった」場面の各言語話者の心理と表現のプロトタイプ

¹本発表ではアメリカ英語母語話者をアメリカ人、イギリス英語母語話者をイギリス人、日本語母語話者を日本人と呼ぶ。

	場面心理	言語表現
日本人	詫び + 感謝	詫び、詫び + 感謝
イギリス人	感謝	感謝、感謝 + 詫び*
アメリカ人	感謝	感謝

*eg. Thanks a lot. I'm sorry that I've wasted some of your time.

軽度の感謝や詫びの気持ちをもつ場合、アメリカ人よりイギリス人のほうが様々な配慮の言語表現を使う politeであることを社会規範として尊重しているイギリス人像

3. Rudeness を愉しむイギリス人; The Weakest Link

BBC のクイズ番組 The Weakest Link(毎夕放送)

回答者：司会者の一般常識問題に 9 人で答え協力して賞金を蓄える

9 回の各ラウンドごとに最も出来の悪い回答者を投票で蹴落とす

生き残った一人だけが全賞金を獲得するサバイバルゲーム

女性司会者：毎回黒ずくめで登場

回答者の無能ぶりを容赦なくこき下ろす

「冷血なクルエラ」、「最も不躰な司会者」という異名をもつ

世界へ拡大：

- ・ 7 カ国版（アメリカ、アイルランド、ニュージーランド、ドイツ、オーストラリア、オランダ、ベルギー）で放送中
- ・ 欧州や南米の 28 カ国に放送許可、11 カ国と協議中（2001 年 10 月 20 日現在）

番組の特徴：

- ・ 三重構造の rudeness(司会者が回答者に rude、回答者が仲間の回答者に rude、視聴者がその rudeness を楽しむ)
- ・ 欧米、南米で人気
- ・ アジアではシンガポール、インドのみ（英語の影響が大きい）で交渉中。
- ・ Politeness を標榜するイギリスから世界に拡大

4. どのような rudeness を行使しているか（Culpeper(1996)の FTA 遂行ルール）

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) Bald on record rudeness(あからさまに) (2) Positive rudeness(ポジティブ・ルードネスで) (3) Negative rudeness(ネガティブ・ルードネスで) (4) Sarcasm or mock politeness(皮肉あるいは偽ポライトネスで) (5) Withhold politeness(ポライトネスを避ける) |
|--|

司会者と回答者では行使する rudeness の範囲には違いがある。司会者はあくまでも回答

者を容赦なく侮辱する役割として、非協調的な negative rudeness や sarcasm/mock politeness を最も多く行使する。しかし回答者は politeness 規範から完全に開放されてはいないため、ときに negative rudeness に緩衝的表現を加えたり、協調的な mock rudeness (後述) を使ったりする。

【司会者のストラテジー】

○Positive rudeness

相手に居心地の悪さを感じさせる: 司会者は回答者からのコメントに一瞬応答を遅らせることにより、相手の話が面白くない、話を真剣に聞いていないという雰囲気を作り出す。

○Negative rudeness

怖がらせる 何か聞き手にとってよくないことが起こるという考えを植え込む: 司会者のパラ言語、非言語行動に大きく現れている。常に黒ずくめの服装で眼鏡をかけ、一度たりとも笑顔を見せず、つぎつぎと問題を読み上げていく。

恩に着せる、蔑む、あざ笑う 力の差を見せつける、馬鹿にする、ちっぼけな者として扱う:

<例1> 相手の教養程度を嘲る

Anne: Johnathon, despite the fact that one of the other contestants can't even spell your name correctly, they have voted YOU the Weakest Link. Goodbye.

<例2> 相手の無能ぶりを指摘する

Anne: Kaye, when you are staff training is there any arithmetic involved?

Kaye: No.

Anne: That's just as well isn't it, you took so long we thought you were counting it out.

○Sarcasm or mock politeness

<例3> 相手の無能ぶりを皮肉る

Anne: Well let me tell you, team, you got six questions wrong in a row. The idea is that as you vote off the Weakest Links, you get better, not worse.

<例4> 相手の達成を皮肉る

Anne: Aaron, you had a surprisingly good round. Was that a mistake?

【回答者のストラテジー】

○Positive rudeness: グループから疎外する

○Negative rudeness: その仲間がいかに無能であるかを述べる (最も一般的)

<例5>

Anne: Why Mavis?

Matt: She got the most questions wrong.

○Negative rudeness + (Softner, Hedge, etc.)

<例6>

Anne: Lord help us. Why have you voted for Mavis?

Lucinda: Well I think she did get some hard questions there, but I'm afraid it let the side down and she had to go.

○Mock rudeness

<例7>

Anne: Alce, why Lucinda?

Alce: After the umpteenth maths question I think she ought to get back to college². She's far too pretty anyway to stay in the final.

5. 協調的 rudeness と非協調的 rudeness

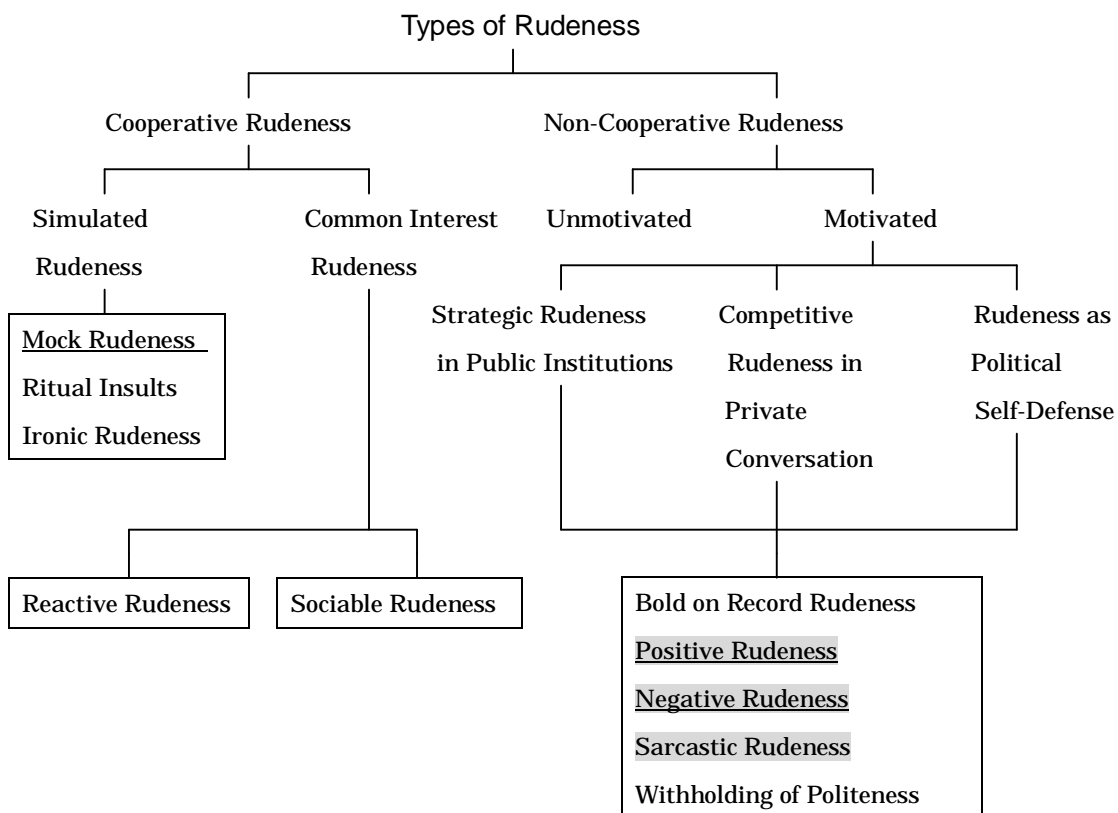


図1. Rudeness のタイプ (Kienpointner(1997)に準拠して改編)

アミかけ部分は司会者の行使した rudeness、下線部分は回答者が行使した rudeness.

The Weakest Link: 非強制的で意図的な rudeness (最も FTA が強い)

なぜ許容され、もてはやされるのか

² ルシンダは大学で数学を専攻しているにもかかわらず、数学の問題で何度も間違っことをさしている。

【枠組みの設定】

- ・ クイズゲームという娯楽
- ・ 何らかの役柄を演じる
 - 司会者：善良な市民を蔑み、嘲り、恥をかかせる冷血なクルエラ
 - 回答者：仲間を批判したり侮辱したりする 仲間を蹴落として生き残る
 - 司会者からやり込められる
- ・ 視聴者とは関係のないところで行われる rudeness

【昇華作用としての rudeness】

Politeness 規範を尊重する傾向の強い言語社会(イギリス、日本、etc.)では、昇華作用としての rudeness をより必要とするのではないか

6. Rudeness の文化依存性: 日本との対比

(1) 非強制的 Rudeness

- ・ **The Weakest Link 型**：文化人³が普通の人を嘲る、侮る、皮肉る
 - 回答者が rudness を行使されるのを見せる
 - イギリスだけではなく、欧米では広く受け入れられているようだ
 - アジアでは普及していない
 - 日本では条件を変えねば無理
 - (お笑いタレントのような特殊な人物 非協調的な rudeness が許容される)
- ・ **スパルタ教育の現場型**：伝統 / 規律の保持、明白な上下関係
 - 立場や役割が上 下
 - 例：日本の学生の体育会系のクラブ、サークルなど
 - (cf. Culpeper(1996)の軍隊への入団生を訓練する司令官の例)

(2) 協調的 rudeness (mock rudeness、banter)

- ・ **若者間のふざけ、けなし型**：親しさを指標する rudeness
 - 例：若者の仲間同士の会話
 - (cf. Labov(1972)のニューヨークの黒人たちの儀式化した侮辱、culpeper(1996)のパーティでのホストの言葉 ‘You silly bugger.’ など)

³ 司会者 Anne Robinson は社会問題を扱うジャーナリストとして、これまでも新聞のコラムやTV番組で知られていた。

- ・ **親しさへの移行型**：疎の関係の堅苦しさや改まりから親の関係に一步近づこうとするとき 「からかい」や「ふざけ」のゲーム
例．酒の席

7. おわりに

Rudeness が成立し許容されるには、それが受け入れられるための枠組づくりを共通理解のもとに行う必要がある。例えば、「おまえ、バカか！」という発話は、失礼なものとして判断されうるが、それとは反対に、友人に親愛の気持ちを込めていったと理解することもできる。これをどのように受け取るかは、会話参加者のコンテキストの理解、あるいは相互理解、相互交渉にゆだねられているといえる。このことは politeness についてもいえることである。Rudeness という、一見 politeness とは反対の概念を使って politeness 研究にアプローチすることで得られるものは少なくない。

【引用文献】

- 三宅和子(1992)『『感謝』と『詫び』にみるアメリカ人とイギリス人の言語行動』『言語行動報告』荻野綱男編 pp. 243-260 筑波大学
- 三宅和子(1993)『感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム』『筑波大学留学生センター論集』第8号 pp. 19-38 筑波大学
- Culpeper, J.(1996) 'Towards an anatomy of impoliteness. *Journal of Pragmatics* 25, 3:349-367.
- Fraser, B.(1990) 'Perspectives on politeness. *Journal of Pragmatics* 14, 2: 219-236.
- Kasper, G.(1990) 'Linguistic politeness: Current research issues. *Journal of Pragmatics* 14, 2:193-218.
- Kienpointner, M.(1997) 'Varieties of rudeness: Types and functions of impolite utterances. *Functions of Language* 4,2:251-287.
- Labov, W.(1972) *Language in the inner city: Studies in the black English vernacular*. Oxford: Blackwell.